



2020年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年11月12日

上場会社名 スターツ出版株式会社
 コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菊地 修一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 金子 弘

TEL 03-6202-0311

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	2,911	17.8	146		63		79	
2019年12月期第3四半期	3,542	6.7	362	7.2	454	11.1	306	18.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	41.53	
2019年12月期第3四半期	159.85	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第3四半期	5,297	4,484	84.6	2,335.71
2019年12月期	5,686	4,708	82.8	2,452.48

(参考)自己資本 2020年12月期第3四半期 4,484百万円 2019年12月期 4,708百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		0.00		35.00	35.00
2020年12月期		0.00			
2020年12月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300	12.3	10	98.3	90	86.8	45	89.2	23.44

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期3Q	1,920,000 株	2019年12月期	1,920,000 株
期末自己株式数	2020年12月期3Q	147 株	2019年12月期	147 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期3Q	1,919,853 株	2019年12月期3Q	1,919,853 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP. 3'1. 当四半期決算に関する定性的情報の(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明、をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界規模の感染拡大の影響により、急速かつ大幅に悪化しており極めて厳しい状況となりました。また、緊急事態宣言解除後も新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがたっておらず、景気の先行きは厳しく不透明な状況が続くと思われま

す。このような環境の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと、既存の出版社の枠にとらわれず「メッセージやストーリーの詰まったコンテンツとサービスで、新たな時間の使い方や、ライフスタイルを提案し、感動の輪を広げる」ことを目的とし、紙・電子出版による雑誌、書籍、コミックの発行、女性向けWEBサイト「オズモール」、ケータイ小説投稿サイト「野いちご」等のWEBサイトの運営、オリジナルイベントの開催とそれらを掛け合わせたソリューションビジネスを軸として事業を運営してまいりました。

当第3四半期累計期間は「オズのプレミアム予約」におけるSEO等の集客対策の強化、SNSコミュニティ「東京女子部」による情報拡散を掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供、小説投稿サイトにおけるUX向上等による新規ユーザー獲得、新たなターゲット層に向けた小説ジャンルの開発、電子コミックレーベル「noicomi

「Berry's Fantasy」の作品数の増加等に注力してまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、施設予約サービス「オズのプレミアム予約」では、外出自粛要請や飲食店等の掲載施設の休業、営業時間短縮、外出需要の低下等により利用者数が大きく減少いたしました。また、雑誌及びWEB広告の掲載、イベントの中止又は延期が多く発生いたしました。

このような営業活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は29億11百万円（前年同期比17.8%減）、営業損失は1億46百万円（前年同期は、営業利益3億62百万円）、経常損失は63百万円（前年同期は、経常利益4億54百万円）、四半期純損失は79百万円（前年同期は、四半期純利益3億6百万円）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

<東京マーケティングドメイン>

東京マーケティングドメインにおきましては、東京圏で、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、「厳選店舗マーケティング」と「体験価値マーケティング」を軸に事業を展開してまいりました。

「厳選店舗マーケティング」は、「オズモール」（会員数：350万人）の成功報酬型の送客サービス「オズのプレミアム予約」を中心に展開し、独自基準で厳選したビューティサロン、ホテル、レストラン等の利用予約サービスを提供しております。当第3四半期累計期間の送客手数料売上につきましては、新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請及び掲載施設の休業、営業時間短縮の影響を大きく受けた第2四半期からは緩やかな回復傾向にあるものの、外出需要の低下は継続しており、前年同期と比較して大きく減少いたしました。

「体験価値マーケティング」では、「オズモール」や女性向けライフスタイル誌「オズマガジン」、フリーマガジン「メトロミニッツ」等のメディアを展開しております。当第3四半期累計期間は、SNSコミュニティ「東京女子部」と連動したPR・販促ソリューション提案等に注力して参りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、雑誌及びWEB広告の掲載、イベントの中止又は延期、雑誌の発行見合わせ等が発生したことにより、前年同期と比較して売上高が減少いたしました。

このような営業活動の結果、東京マーケティングドメインの売上高は14億45百万円（前年同期比39.4%減）、営業損失は4億70百万円（前年同期は、1億29百万円の営業利益）となりました。

<投稿コンテンツドメイン>

投稿コンテンツドメインにおきましては、「野いちご」（会員数：89万人）をはじめとするターゲット別小説投稿サイトの運営と小説投稿サイトの人気作品を中心とした書籍及びコミックの発行を継続的に行っております。

当第3四半期累計期間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う書店の休業等により、女子小中高生向けの紙の文庫本等の売上が影響を受けましたが、大人向け恋愛小説レーベル「ベリーズ文庫」を原作とした電子コミック「ベリーズコミックス」の売上が好調に推移したことや「ベリーズ文庫」等の電子書籍の売上が堅調に推移したことにより、前年同期と比較して売上高は増加いたしました。新たな取組みといたしましては、8月に児童文庫レーベル「野いちごジュニア文庫」を創刊いたしました。また、2016年7月に刊行したスターツ出版文庫『あの花が咲く丘で君とまた出会えたら（汐見夏衛 著）』が、今年6月の読者のSNS投稿をきっかけに話題となり、3カ月間で7.5万部を増刷するヒット作となっております。

このような営業活動の結果、投稿コンテンツドメインの売上高は14億65百万円（前年同期比26.7%増）、営業利益は3億87百万円（前年同期比26.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて3億89百万円減少し、52億97百万円となりました。流動資産は、未収入金が1億65百万円、現金及び預金が87百万円増加した一方で、売掛金が5億32百万円減少したこと等により、前事業年度末と比べて2億50百万円減少し、43億8百万円となりました。

固定資産は、前事業年度末と比べて1億38百万円減少し、9億89百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて1億64百万円減少し、8億13百万円となりました。流動負債は、未払法人税等が97百万円、買掛金が36百万円減少したこと等により、前事業年度末と比べて1億24百万円減少し、6億77百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて40百万円減少し、1億35百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて2億24百万円減少し、44億84百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金および現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ87百万円増加し、13億91百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払2億20百万円、返品債権特別勘定の減少39百万円、仕入債務の減少36百万円等による資金の使用の一方で、売上債権の減少5億32百万円等の資金の獲得により、2億24百万円の資金を獲得(前年同四半期は6億26百万円の資金を獲得)いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、オフィスの改装等による有形固定資産の取得19百万円、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得47百万円等により、69百万円の資金を使用(前年同四半期は3億65百万円の資金を使用)いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払により、67百万円の資金を使用(前年同四半期は67百万円の資金を使用)いたしました。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、適正かつ合理的な算定が困難なことから未定としておりましたが、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、業績予想を公表することといたしました。

業績予想の詳細につきましては、本日(2020年11月12日)公表しました「業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304,240	1,391,416
売掛金	1,683,769	1,151,242
製品	46,062	48,814
仕掛品	87,238	56,184
前払費用	22,570	35,348
未収入金	-	165,674
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	641	5,161
返品債権特別勘定	△83,801	△44,568
貸倒引当金	△1,786	△1,149
流動資産合計	4,558,934	4,308,125
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	3,857	19,262
工具、器具及び備品(純額)	10,885	10,390
有形固定資産合計	14,742	29,653
無形固定資産		
商標権	1,138	1,157
ソフトウェア	290,896	244,826
ソフトウェア仮勘定	2,704	4,594
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	297,114	252,954
投資その他の資産		
親会社株式	603,231	499,479
投資有価証券	86,046	78,416
差入保証金	96,995	96,995
その他	29,603	31,945
投資その他の資産合計	815,876	706,837
固定資産合計	1,127,733	989,446
資産合計	5,686,668	5,297,571

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	273,342	236,685
未払金	34,442	29,828
未払費用	29,667	39,770
未払法人税等	110,738	13,432
未払事業所税	4,250	3,231
未払消費税等	41,530	-
前受金	21,859	6,566
預り金	36,060	37,714
賞与引当金	32,000	98,000
返品調整引当金	211,470	207,931
ポイント引当金	6,803	4,248
流動負債合計	802,165	677,408
固定負債		
繰延税金負債	122,048	72,428
退職給付引当金	3,051	9,922
役員退職慰労引当金	51,000	53,600
固定負債合計	176,099	135,951
負債合計	978,265	813,359
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	3,199,974	3,053,055
自己株式	△350	△350
株主資本合計	4,276,624	4,129,705
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	431,779	354,506
評価・換算差額等合計	431,779	354,506
純資産合計	4,708,403	4,484,212
負債純資産合計	5,686,668	5,297,571

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	3,542,764	2,911,020
売上原価	2,025,509	2,003,656
売上総利益	1,517,254	907,364
返品調整引当金戻入額	245,765	211,470
返品調整引当金繰入額	218,849	207,931
差引売上総利益	1,544,171	910,902
販売費及び一般管理費	1,182,125	1,057,778
営業利益又は営業損失(△)	362,045	△146,875
営業外収益		
受取利息	4,777	5,618
受取配当金	75,568	71,942
雑収入	11,786	5,284
貸倒引当金戻入額	-	946
営業外収益合計	92,131	83,791
営業外費用		
雑損失	168	61
営業外費用合計	168	61
経常利益又は経常損失(△)	454,008	△63,145
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	454,008	△63,145
法人税、住民税及び事業税	159,679	32,090
法人税等調整額	△12,555	△15,512
法人税等合計	147,123	16,577
四半期純利益又は四半期純損失(△)	306,885	△79,723

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	454,008	△63,145
減価償却費	102,356	96,413
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△794	△637
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△3,300	2,600
賞与引当金の増減額 (△は減少)	74,200	66,000
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	521	6,871
返品債権特別勘定の増減額 (△は減少)	△8,101	△39,232
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△26,916	△3,538
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△9,992	△2,554
受取利息及び受取配当金	△80,345	△77,560
売上債権の増減額 (△は増加)	369,223	532,527
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△45,467	28,301
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	1,403	-
その他の資産の増減額 (△は増加)	7,185	△23,871
仕入債務の増減額 (△は減少)	7,773	△36,657
未払金の増減額 (△は減少)	△8,147	△4,066
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△33,162	△41,530
その他の負債の増減額 (△は減少)	11,473	△4,555
その他	△7,266	△17,252
小計	804,652	418,109
利息及び配当金の受取額	80,345	26,186
法人税等の支払額	△258,438	△220,098
営業活動によるキャッシュ・フロー	626,559	224,196
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社預け金の預け入れによる支出	△300,000	-
有形固定資産の取得による支出	△5,028	△19,915
無形固定資産の取得による支出	△52,354	△47,276
差入保証金の差入による支出	△4,471	△442
保険積立金の積立による支出	△3,286	△3,011
その他の収入	-	900
投資活動によるキャッシュ・フロー	△365,140	△69,745
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△67,088	△67,275
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67,088	△67,275
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	194,329	87,175
現金及び現金同等物の期首残高	1,253,355	1,304,240
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,447,685	1,391,416

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大により、当社は施設予約サービス利用者の減少、広告掲載及びイベント開催の中止等の影響を受けております。

新型コロナウイルス感染症の影響については、収束時期を予測することは困難であるものの、2020年末まで継続し、それ以降に徐々に回復が見込まれると仮定し、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損等の会計上の見積もりを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の経済活動への影響は不確実性が伴うため、実際の結果はこれらの見積りと異なる可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	東京マーケティング ドメイン	投稿コンテンツ ドメイン	計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
売上高					
外部顧客への売上高	2,385,929	1,156,834	3,542,764	—	3,542,764
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,385,929	1,156,834	3,542,764	—	3,542,764
セグメント利益又は損 失(△)	129,078	307,267	436,345	△74,300	362,045

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△74,300千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	東京マーケティング ドメイン	投稿コンテンツ ドメイン	計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
売上高					
外部顧客への売上高	1,445,280	1,465,740	2,911,020	—	2,911,020
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,445,280	1,465,740	2,911,020	—	2,911,020
セグメント利益又は損 失(△)	△470,989	387,248	△83,741	△63,134	△146,875

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△63,134千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。